

41

川崎市立宮前図書館 認知症への取り組み ～「認知症の人にやさしい小さな本棚」～

神奈川県 川崎市立宮前図書館

基本データ

所在地	川崎市宮前区宮前平 2-20-4
職員数	12人
うち司書数	8人
蔵書数	245,401冊
利用登録者数	52,861人
年間貸出冊数	927,897冊
(児童用図書貸出数 397,071冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】様々な利用者へのサービスの充実

【活動のねらい】

- 現場で働くスタッフが認知症への理解を深め、地域での見守りの意識をもって対応していくことにより、生活の一部として図書館を使って来られた方々が年齢をかさねても使い続けられるようにしていく。
- 様々な利用者へのサービスの充実とともに地域包括ケアシステムを担うサービスの充実をはかる。

取組・活動の概要

- 宮前区は人口の増加が続く一方、高齢化率が高く、平均寿命も長い。
- 同じことを何度も聞いてきたり、自分の本と図書館の本の区別がつかなくなった等のケースに接する機会も増えてきた。
- 宮前図書館では、認知症に関する様々な取組を2015年度から開始し、試行錯誤しながら進めてきた。
- 認知症に関する図書をまとめて展示する「認知症の人にやさしい小さな本棚」(約180冊)を館内に常設している。棚の周辺には各地域の包括支援センターや関連機関のパンフレットやチラシ等も置いて周知に努めている。



認知症関連チラシ、パンフレット



認知症の人にやさしい小さな本棚

- 区内の相談窓口やリンク先などをまとめ、パスファインダー「認知症について調べる」を作成している。
- ご本人やご家族が書いた体験記等、認知症関連の企画展示(随時)や、地域包括支援センターと連携した一般市民向けの講座等を行った。
- 関係局や地域包括支援センターと連携した職員向けの「認知症サポーター養成講座」や、より実践的な「ブラッシュアップ研修」等を現場スタッフが受講することにより、認知症に関する正しい関連知識の習得や職員の意識の向上を図った。



認知症サポーター養成講座

取組・活動の工夫や特徴

- 認知症に関して知識のある、地域包括支援センターや関係局の職員とのつながりをつくることで、市民及び職員対象の認知症関連の研修や講座の開催、認知症に関する理解促進や啓発活動を行えるようにした。
- 関連図書コーナーの常設、各地域の地域包括支援センターのチラシ配布等、関係する情報を積極的に情報提供できるようにした。

取組・活動の成果や今後の展望

- 認知症や介護に関する資料がよく利用されるようになった。
- 宮前図書館の試みが市民や関係機関から理解され、一定の評価を受けるようになってきた。
- 川崎市立の他の図書館でも、高齢者向けの紙芝居の収集や認知症に関するコーナーの設置、全館の職員を対象とする認知症サポーター研修の開催等、市立図書館全体での取組に拡大してきた。
- 市や地域の福祉関係部署と連携を図り、地域包括ケアシステムの充実を図ることができた。

